

表-8 栽培品種と受粉樹のチュウゴクグリ及びニホングリとの相対的距離と渋皮剥離率との関係

		チュウゴクグリとの距離 (m)					
		5	10	15	20	25	30
ニホングリとの距離 (m)	5	52	49	46	42	39	36
	10	65	62	59	55	52	49
	15	78	75	72	68	65	62
	20	91	88	85	82	78	75
	25	100	100	98	95	91	88
	30	100	100	100	100	100	100

出典：西山（2014a）、西山（2014b）

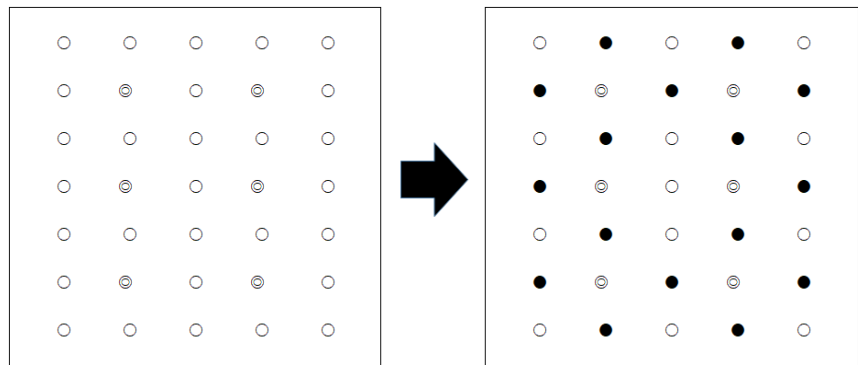


図-18 品種の組み合わせと植え付け方法

凡例 ○：主要品種 ◎：受粉樹 ●：間伐樹

4 整枝・せん定

(1) 整枝

整枝の代表的な樹形として、開心自然形*と変則主幹形*が挙げられる。

- 主枝の発生位置はニホングリ栽培と同様、30～90cmを原則とする。ただし、乗用草刈り機等による下草刈りを実施する場合、主枝の発生位置を上記より、やや高めに設定する。
- 主幹の長さは、開心自然形では1.5m程度（図-19～21 参照）、変則主幹形では3m程度（図-22～23 参照）とする。
- 主枝数は、変則主幹形では4～5本、開心自然形では3本程度を基本とする。
- 側枝は、主枝及び垂主枝を発生させてから4～5年で更新する。
- 幼木では、主枝の育成に重点を置き、主枝の発育に悪影響を及ぼす内向枝*等を取り除く。
- 主枝候補枝の生育状況をみながら、下から順次、主枝を決め、不要になった主枝候補枝は取り除く。

- ・ 太陽光が常に樹冠内に差し込むような樹形に誘導する。
- ・ 成木以降は、主幹を2～3年かけて切り下げるとともに、主枝候補枝を育成する。その際、切り下げが遅れないよう、留意する。
- ・ 樹冠内に効率よく光を取り入れるよう、樹冠表面積（赤線部分）が最大となるよう、樹形を誘導する（図-24 参照）。

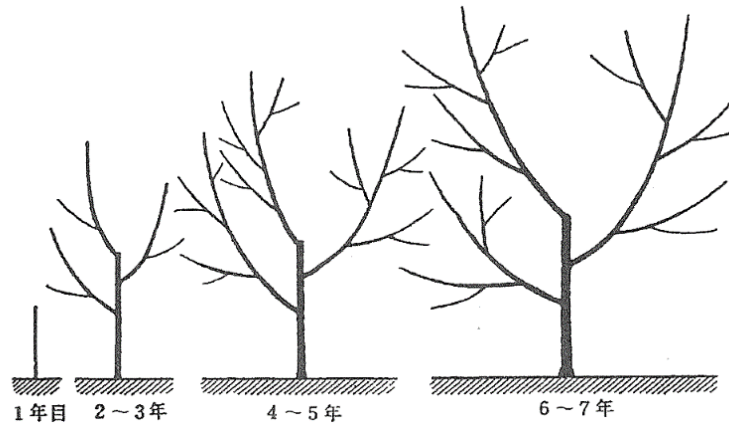


図-19 開心自然形の模式図（側面図）

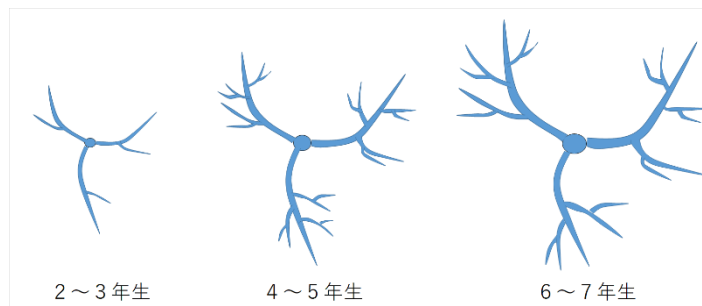


図-20 開心自然形の模式図（上面図）



図-21 4年生樹の樹形（開心自然形）

注. 左側：整枝前（着葉時） 右側：整枝後（落葉時）

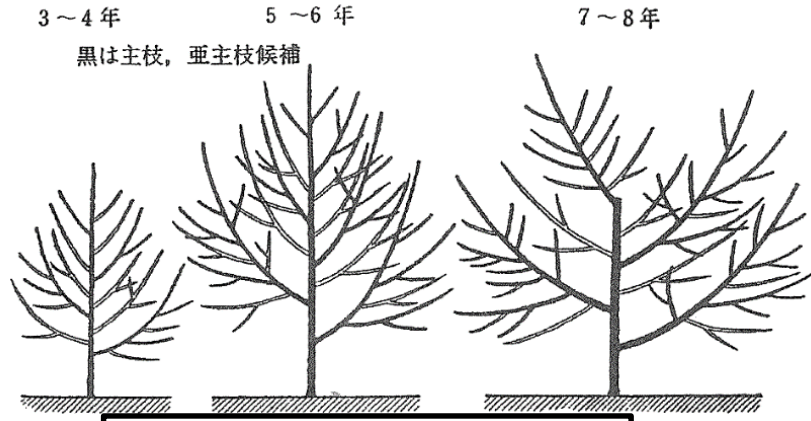


図-22 変則主幹形の模式図

- ・変則主幹形の導入に当たっては、樹齢5～6年生までは主幹形を維持しながら、その後、主枝、亜主枝の間引きを行う（図-22、-23 参照）。
- ・密植栽培（2.5m×4.0m 100本/10a）であれば、この樹形に近づける。



図-23 6年生樹の樹形（変則主幹形）
注. 左側：整枝前（着葉時） 右側：整枝後（落葉時）

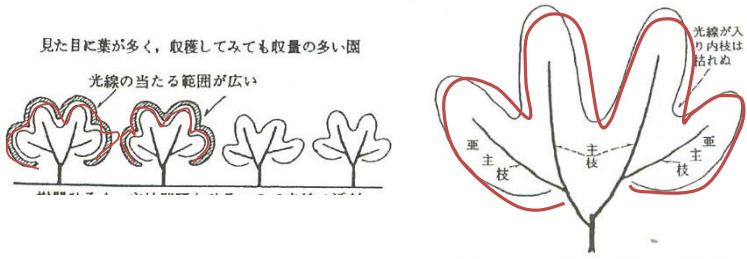


図-24 結果部位の立体化

出典：猪崎（1978）

(2) せん定

- ・結果母枝数は m^2 当たり4～5本程度とする。
- ・ニホングリの結果母枝長は20cm以上であるが、岡山1号では30cm以上、岡山3号20～80cmである(図-25、表-8 参照)。
- ・ニホングリにおける結果母枝の基部直径は6mm以上であるのに対し、岡山1号は8mm以上、岡山3号は5mm以上である(表-8、図-26～27 参照)。
- ・岡山1号は、ニホングリに比べ、結果母枝の直径は一回り太いのに対し、岡山3号は細いのが特徴である。
- ・果実は、結果母枝の先端部1～3芽に結実するため、結果母枝の先端部を不用意に切り取らない。切り取る場合、同結果母枝の先端部から約1/3までとする(図-25～28)。
- ・チュウゴクグリは結果母枝が徒長しやすいため、夏季以降、台風による折損を回避するため、適宜、夏季せん定を行う(図-29～31 参照)。
- ・大枝の間引き時には、枯れ込み防止のため、余分な枝部分を残さず切り、トップジンMペースト等を塗布し、木口面を保護する(図-32 参照)。
- ・岡山1号、3号ともに、ニホングリにみられる、結果母枝数の調整(大玉生産)は積極的に行う必要はない(図-33 参照)。

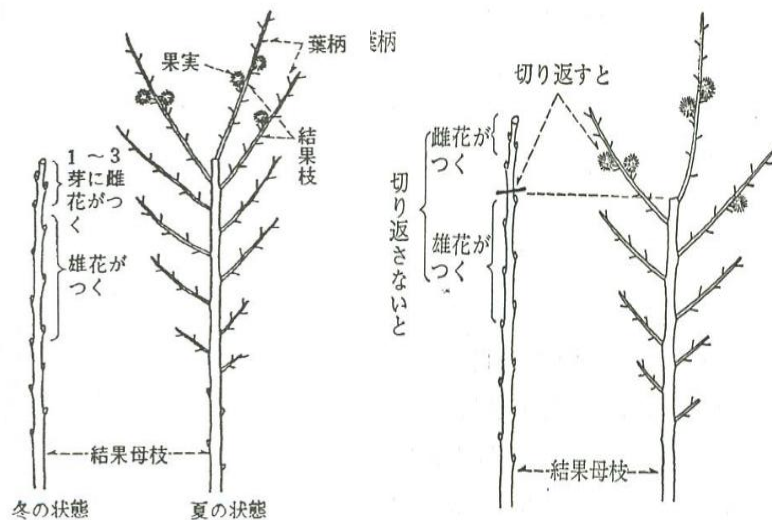


図-25 クリの結実特性

出典：猪崎 (1978)



図-26 雌花の着生

注. 右写真奥は雄花穂

- ・ 6月末、園内を見回り、雌花の着生況を確認するとともに、7～8月の生理落果*の状況を合わせて見ておく。

表-8 優良結果母枝の判断基準

品 種	結果母枝長 (cm)	望ましい基部直径 (mm)	先端部の状態
岡山1号	30～	8mm以上	先端部の節間が詰まり、ずんぐりとして
岡山3号	20～	5mm以上	充実したている
(参 考)			
ニホングリ	30～70	6mm以上	先端部の節間が詰まり、ずんぐりとして
利平グリ	30～80	6mm以上	充実している

- ・ 岡山1号、3号ともに、結果母枝長が1 m以上（徒長枝）となりやすいため、切り戻し作業を行う。

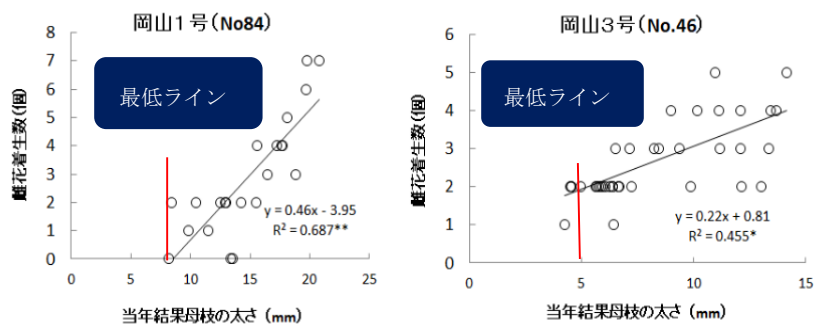


図-27 当年結果母枝の太さと雌花着生数の関係

- 岡山 1 号では基部径が 8 mm 、岡山 3 号では 5 mm が結実有無の一つの目安となる。



図-28 結果母枝のせん定 (1/3) とその効果

(左側：全景 右側：着きゅう状況)

注. せん定 (1/3) : 結果母枝を先端部から 1/3 切り戻した



図-29 無せん定 (徒長) の事例

(勝央町河原地内)

- 無せん定では、当年枝が徒長しやすく、夏季の台風被害を受けやすくなる (図-29 参照)。



図-30 夏季せん定の事例
(勝央町下町川地内)

- ・夏季せん定を行うことにより、徒長を抑え、台風被害の軽減を図ることができる(図-30 参照)。



図-31 秋伸び(2度咲き)の事例
(勝央町河原地内)

- ・岡山甘栗(岡山1号)は秋伸び(2度咲き)しやすいため、冬期のせん定作業では、この部分は取り除く(図-31 参照)。

- ・大枝は、側枝または発育枝や徒長枝の発生している部分で切る（図-32 参照）。
- ・切る位置より上部で一度切り、先を軽くしてから予定位置で切る。
- ・大きい切り口には、トップジンMペースト等の保護剤を塗布する。

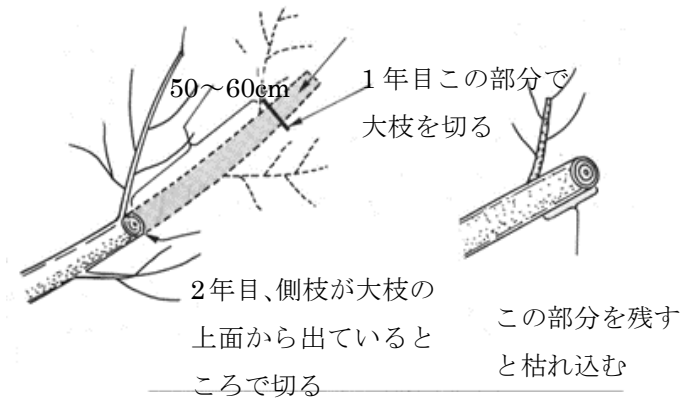


図-32 大枝の間引き方法

(茨城県農業総合センターの資料を基に作成)

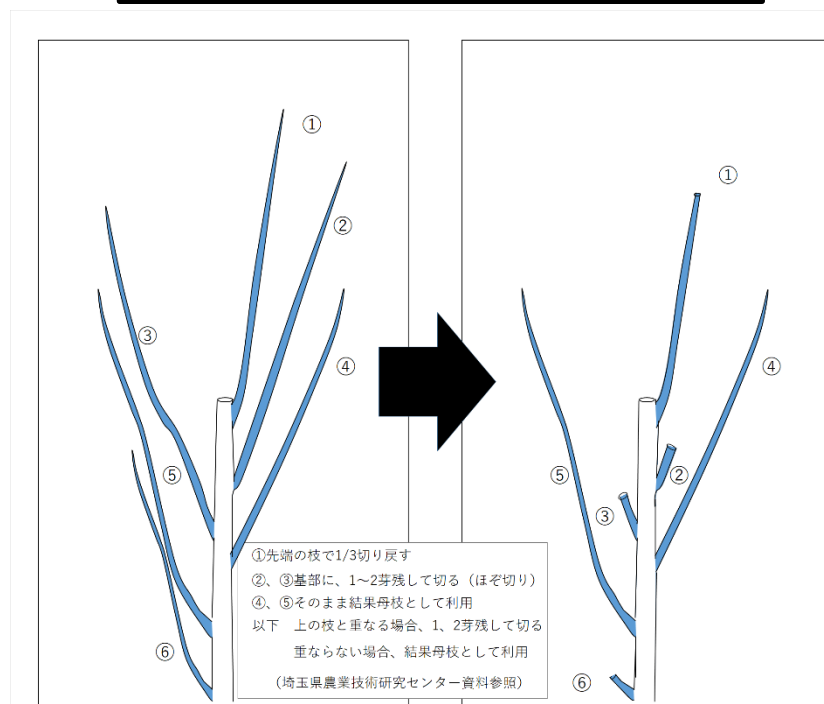


図-33 結果母枝の調整方法（上段）

(埼玉県農業技術研究センターの資料を基に作成)

- ・大玉生産を目指す場合、結果母枝の調整を要するが（図-33 参照）、そうでなければ、太枝の間引きせん定で対応し、細かい結果母枝の調整（図中の②、③、⑥）は省略する。

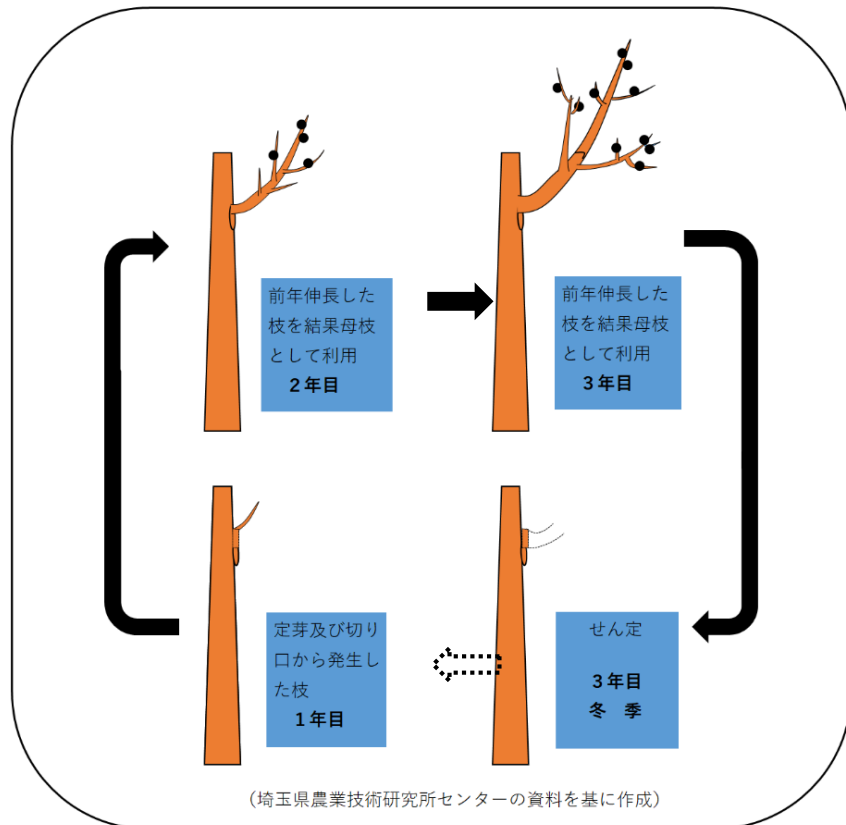


図-34 枝の更新サイクル

(埼玉県農業技術研究センターの資料を基に作成)

- ・ 枝は仕立て直してから、ほぼ3年サイクルで更新する（図-34 参照）。

5 間伐

- ・ 10a 当たり 36～40 本の密植栽培では、10 年後に 20 本、15 年後に 12～15 本程度まで、縮伐・間伐を実施する。
- ・ 5 年生樹までは、岡山 1、3 号ともに、樹冠直径*は 5 m 以下であるのに対し、樹齢が 6 年生になると、樹冠直径は 5 m より大きい個体が増加し（図-35 参照）、隣接樹同士が接し始めるため、間伐を実施する。
- ・ 地際の直径（接ぎ木部位直下）が 15cm 程度に達すると（樹冠直径 5.5～6.0m）、岡山 1、3 号ともに、第 1 回目の間伐時期に達したと考えられる。
- ・ 縮伐・間伐は、樹に葉が残っている状態（年内）の方が、樹の混み具合がよくわかり、作業効率である。
- ・ 樹勢が非常に悪く、収穫が見込めない樹は、早めに間伐し、改植する。